

信濃川水系河川整備計画 計画段階評価（上流部）検討委員会 議事要旨

開催日時：平成 26 年 7 月 18 日（木）13:30～14:40

場 所：千曲川河川事務所 大会議室

議事次第：1. 開会

2. 開会挨拶

3. 委員紹介

4. 設立趣旨について

5. 議事

(1) 計画段階評価（上流部）検討委員会の規約について

(2) 計画段階評価（上流部）検討委員会の委員長選出について

(3) 信濃川上流部における治水対策の計画段階評価（案）について

(4) その他

6. 閉会

○議事

(1) 計画段階評価（上流部）検討委員会の規約について

- 異議なし

(2) 計画段階評価（上流部）検討委員会の委員長選出について

- 規約第 3 条 3 項に基づき、委員長に、富所五郎 信州大学名誉教授を選出した。

(3) 信濃川上流部における治水対策の計画段階評価（案）について

（A 委員）

- 安曇野市明科の荻原地区におきまして、築堤事業を行っていただいているところである。当地区は、平成 18 年 7 月洪水の際に、大町ダムで洪水調整を行っていただいた結果、溢水（いっすい）に至らず、被害防止が図られたところもあり、「既存ダム有効活用を中心とした対策」は、効果がある対策で、流域市町村としては、大変ありがたいと思うところである。ダム管理者、関係者との調整を進め、洪水調節機能を確保していただきたい。

（B 委員）

- 「③遊水地＋河道の掘削」の実現性の評価において「遊水地を想定する箇所においては、古くから広範囲にわたり浸水被害を受けてきた地域であり、地域合意形成は困難」とあるが浸水被害を受けてきているからこそ協力が得られやすいと思うが、地域合意形成が困難と評価したのはなぜか。

（事務局）

- 沿川では市街化が進み、遊水地候補地として挙げられる箇所においても宅地化が進むなど、遊水地として用地調整が困難となるおそれがあることを踏まえ記載した。

（B 委員）

- 治水対策案として 3 つの案が比較されているが維持管理期間は何年としているか。

(事務局)

- 信濃川水系河川整備計画の計画期間である30年間の費用を計上している。

(B委員)

- 治水対策案「⑥既設ダム有効活用＋河道掘削」に土砂対策施設とあるが既設ダムの貯水池を浚渫することにより治水容量を増やすということか。

(事務局)

- 現在の既設ダムの容量を治水容量として確保するという意味である。

(B委員)

- 信濃川流域は広い。今回の治水対策案は高瀬川流域に多く降る場合は効果を発揮するが、他流域で多く降る場合はどうするのか。治水対策としては流域全体に散りばめ危険度を分散させることが基本である。また、下流部においては流域からの洪水を確実にキャッチできることが必要である。今後、検討を実施して頂きたい。

(事務局)

- 過去の洪水の雨の降り方を踏まえて効果的な案を選定し、治水効果を確認している。今回は平成26年1月6日に策定された信濃川水系河川整備計画の目標規模による治水効果として整理しているが、その先には河川整備基本方針規模の治水対策が必要であり、最終的には流域全体としての治水対策となる。

(C委員)

- 河道掘削については3案とも含まれているが、「動植物の生息・生育環境に影響を与える可能性がある。」というネガティブな捉え方をしている。これまで千曲川河川事務所と一緒に河川生態の研究を進める中で現在の千曲川の高水敷は陸地化し、千曲川本来の水辺の植物や砂礫河原が減少しているが、河道掘削により砂礫河原を再生することで、イカルチドリなどといった水辺を利用してきた鳥が戻ってくるようなことがわかっている。河道掘削を行うことにより千曲川本来の河川環境を再生してきているという良い面もあり、悪いイメージだけではない。

(B委員)

- コメントだが、対応方針（原案）は現在の案でよいが、木曽川南木曽地区のような土砂災害が発生しており、千曲川流域において深層崩壊危険箇所があることから治水対策においても土砂災害による河道閉塞や支川から本川への土砂流入を前提として考えた方がよい。

(委員長)

- 善光寺地震においても犀川で河道閉塞が起こり、その後決壊している。

(事務局)

- 平成22年度より深層崩壊危険度マップを作成しており、土砂災害対策については砂防事業として進めているところである。北陸地整として、大規模検知センサーを長野県内に9基（北陸管内では27基）設置し、試験運用を実施している。なお、河川整備計画においても、大規模地震発生への対応を盛り込んでいる。

(委員長)

- 長野県と新潟県にも説明しているとのことであったが、どうであったか。

(事務局)

- 長野県と新潟県、ともに異存なしとのこと。

(委員長)

- 「信濃川上流部における治水対策の計画段階評価」に関して、事務局の対応方針（原案）どおりでよいか。

(各委員)

- 異議なし

—以 上—